

# 聖徳太子と井伊直虎に言語哲学者は何を思うか

竹内泉 (Izumi Takeuti)

産業技術総合研究所

相異なる複数の信念を記述するには、 $x=y \supset \Box x=y$  が恒真でない、即ち  $x=y \wedge \Diamond x \neq y$  が充足可能であるような論理体系が必要である。

例えば聖徳太子と厩戸皇子は、昭和後期の検定教科書では同一人物である。一方で最近の学説では、厩戸皇子は歴史上の人物であるのに対し聖徳太子は伝説上の人物である。同様のことが井伊直虎についても言える。

斯様にして、人名が片方の信念では同一人物を指すが、もう片方では別の人物を指す場合がある。このような信念同士が互いを引用しながら議論する様を記述するには、 $x=y \wedge \Diamond x \neq y$  が充足可能であるような論理体系が必要である。

本発表ではそのような論理体系を設計する。これは、多重世界意味論の各世界の代わりに論理式を置き、また異なる信念の間に概念を共有する項を指定することで実現する。